

送付先: ICT夢コンテスト2022事務局 宛 (E-mail: [Yume2022apply@japet.or.jp](mailto:Yume2022apply@japet.or.jp))

## ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無し
類似のコンテストへ同時期に応募しない(していない)事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無し

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

効果的な授業	児童生徒の資質・能力	<input type="checkbox"/>	ICT活用指導力向上
校務の情報化	保護者や地域への情報発信	<input type="checkbox"/>	ICT活用サポート
ICT活用推進	学校運営・管理	<input type="checkbox"/>	地域での児童生徒学習支援
学校行事	通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/>	その他 ( )

**連名の場合:** 実践の代表として応募者含め4名までの記載としてください。多くの協力者がいる場合には、入賞した際に実践事例集に連名として記載いただいて構いません。

学校又は団体名 (実践時)	実践時の学校または団体名を記入。現所属が異なる場合は (現所属: ○○教育センター 指導主事) のように追記。		
団体種 (校種、NPO 等)	ドロップダウンリストから団体種を選択してください。(小学校、小中一貫校、中学校、中高一貫校、高等学校、特別支援学校、幼稚園・保育園・認定こども園、教育委員会、教育センター、大学・大学院、企業、NPO・任意団体、個人 その他)		
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入</small> ※連名での応募も可	応募者※1	夢野 夢太郎	教諭
	連名者 (3名まで)	夢元 夢子	ICT支援員
		夢山 夢夫	職員
		ユメノ ユメタロウ	
		ユメモト ユメコ	○○教育委員会
		ユメヤマ ユメオ	一般社団法人 ◆◆会
学校や団体への所属年数(応募者)	5 (教師は歴年、1年目は“1”と記入)	ICT夢コンテストの今回を含む応募回数 (応募者)	2 (初応募は“1”を記入)
応募者 連絡先〒 (半角) ※2	999-9999	勤務先名 (応募者連絡先が勤務先の場合のみ記入)	(株)○○○○社
応募者 連絡先住所※2	○○○県○○市○○9-99-99		
応募者 E-mail※2	abcd@abc.abcd.jp	応募者 電話番号※2	999-999-9999

実践事例タイトル ※40文字以内・半角カタカナは不可	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0		
実践の特長 (先進性、普及性) のどちらか一つ選択 ※どちらかといえば該当すると思う方の項目の左に ● を記入	<input type="checkbox"/>	先進性	普及性

下記項目は改行せずに記入をお願いします。自由記述ですが審査の参考としますので、必ず記入 (なければ“特に無し”) をお願いします。

教科もしくは分野	
対象者 (学年、他)	
教科の単元 ( )	
実践場所 (遠)	
実践時期	
活用した ICT 機器、教材、環境等	

**先進性、普及性の判断基準**については次頁参照

**タイトルの工夫**

- ・具体的で 内容をイメージしやすい
- ・簡潔である
- ・読み手の興味関心を引く
- ・親しみやすい

**タイトルの例**

- ・自動販売機の仕組みを参考にした中学校プログラミング教育の実践と協働性の効果 (37文字)
- ・小学校体育における動画情報の蓄積と学習支援ソフトを活用した相互評価活動の検討 (38文字)
- ・「Viscuit」を活用した「プロジェクションマッピング」の取組みと対話の促進 (39文字)
- ・GIGA スクール準備下における ICT 支援員の課題および効果的な支援上の留意点 (38文字)

アンケートをお願いします。コンテスト本コンテストをどのようにお知りになりましたか。	
案内ポスター	<input type="checkbox"/>
案内チラシ	<input type="checkbox"/>
ご意見	<input type="text"/>

- ※1: 連名の場合、「応募者」を記入してください (実践の際の署名)
- ※2: 連絡先住所は、事務局から連絡を取らせていただくため、必ず正確に記入してください。

- ・応募事例に、図や写真を組み込むことでより実践が分りやすくなるようにしてください。
- ・フォーマットの変更はしないでください (実践内容部分も2段組にせず、1段組のまま記述してください)。
- ・参照URL、QRコードの使用は不可です (応募書類以外の情報は審査対象外です)。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。
- ・実践事例の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください、また46文字/行を目安とってください。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

(1)～(3)項目の記述配分は自由です。

下の（1）（2）（3）の内容を簡潔にまとめ、記述してください。

実践事例各項目の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください。  
また46文字/行を目安としてください。

(1) ICT活用の目的とねらい

以下の観点を記述に含めるようにしてください。

- どのような課題を解決しようとするものか？
- ICT活用の位置づけは？
  - 授業中のどういう場面でICTを活用するのか？
  - 単元指導のどの時限の授業でICTを活用するのか？
  - 課外活動でのICT活用なのか？

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

## ※先進性・普及性の判断の目安

先進性：ICTの利用場面や利用方法に今までにない工夫がある。

普及性：読者が同様の授業を再現することができる。ただし、普及のための工夫があることが必要。

両方の要素を含んでいて決めづらい場合は「どちらかといえば先進性」、「どちらかといえば普及性」なのかで判断し決めてください。

ここでは、具体的にどのような活動を行ったのか記述してください。実践の様子がわかるような写真や図表があるとよいです。そして具体的に生き活きと描写できれば、より伝わりやすく好印象です。

またどのようなICT環境を使ったのか、どのような工夫（普及性の場合も記述）を行ったのか分かるように記述してください。

(3) 実践の成果（子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等）

ICTを活用したことによる変化を具体的に、また客観的に記述してください。例えば、児童・生徒の行動変化、生徒自らが意識変化を表明したもの、生徒による表現の内容変化などの具体的に見える変化を記述してください。また、グラフや表などで変化を定量的に示すことができるとよいです。